

IV-292

イベントの類型化と参加者数からみた開催条件に関する研究

京都大学工学部 正 員 吉川和広 京都大学工学部 正 員 奥村 誠
 京都大学大学院 学生員 秀島栄三 京都大学大学院 学生員 安達孝実

1. はじめに 近年、わが国では地域振興を目的としたイベントがひろく開催されている。それらのイベントが十分な地域整備効果をあげるためには、地域が意図する整備目的に応じた効果をもち、地域の実状からみて実施条件を満足する種類のイベントを選ぶべきである。このプロセスを方法論としてまとめるための第一段階として、本研究ではイベントの類型化を試み、また参加者数との関係を調べる。

2. 分類手法と分類結果 サンプルとして「全国イベント計画総覧1990年度版」(産業タイムズ社)に掲載されている 695個のイベントを取り上げる。これに10個のアイテムを取り上げて数量化理論Ⅲ類を適用し、情報の集約を行った。第3軸までは寄与率が高く、意味付けが可能であった。

最初に、カテゴリスコア(表-1)を分析することにより、第1軸は営利性を、第2軸は専門性を、第3軸は規模を意味することを明確にした。なお、各軸は正の時、営利的、専門的、小規模であることを意味し、負の時、社会的、一般的、大規模であることを意味する。

次に、個体数量を用いてクラスター分析を行った結果、10個に分類する場合の意味づけが最も明確で

あった。個体数量図上での位置によって各分類の性質を判断すると、次の通りである。(図-1)

分類1, 2, 3, 4は第1軸の値が負であることから、社会性が強い一般的なイベントである。また第2軸、第3軸は値が小さい方から分類1, 2, 3, 4の順となり、この順で対象を限定した小規模なものとなっている。そこで、分類1~4を順に「博覧会」「大規模フェスティバル」「中規模フェスティバル」「小規模フェスティバル」と名付ける。

分類5, 6, 7は第1軸が正であり営利的である。またこの順に第2軸、第3軸の値が小さくなるので、専門性や規模の違いがあることがわかる。分類5は特設会場を使用する大規模な「特設会場イベント」である。分類6は「会場使用の展示会・見本市」と名付ける。分類7は小規模で利潤追求的なコンサート、展覧会であり「コンサート・展覧会」と呼ぶ。分類8はどの軸においても原点の近くに位置している。これらは営利性、専門性、規模の面で一般的であるといえる。また、分類8では企業が関与する場合が多い。そこで「標準企業型イベント」と呼ぶことにする。

分類9, 10は以上のものと比較して第2軸の値が

表-1 カテゴリスコア

777k	カテゴリー	第1軸	第2軸	第3軸
開催期間	4カ月未満	1.83	-1.17	7.78
	4カ月-半年	1.40	-0.22	2.43
	半年-1年	-0.40	-0.15	0.24
	1年-2年	2.17	1.60	-6.36
	2年-5年	0.42	6.28	-2.84
	5年以上	-0.14	-0.01	1.77
開催期間	1日	-1.09	1.41	4.11
	2日-5日	0.79	-0.86	-0.72
	6日-15日	-0.26	2.28	-1.09
	16日-1カ月	-2.61	0.43	-0.16
	1カ月-半年	-1.54	-1.84	-7.21
	半年-1年	-0.94	2.13	1.20
集客圏	1年以上	-	-	-
	世界	1.61	5.41	-3.82
	日本国内	1.00	-1.17	-3.06
	地方	0.33	-1.95	-0.02
	都道府県内	-0.33	-0.86	2.15
	複数市町村内	-2.52	0.58	1.60
客	単一市町村内	-2.42	0.62	3.75
	単一市町村内一部	-1.78	5.79	-0.95
	招待イベント	3.21	3.53	3.47

客	少年層	-2.50	-1.36	0.05
	青年層	0.74	0.91	6.35
	中高年層	2.35	-3.14	-1.83
	老年層	-	-	-
	少年層+青年層	0.18	-0.35	5.39
	少年層+中高年層	0.10	-0.84	0.75
層	青年層+中高年層	1.69	-2.61	-0.06
	青年層+老年層	-0.37	-2.81	-1.87
	中高年層+老年層	-0.91	-1.29	-3.37
	年齢層不問	-1.94	-0.19	-1.10
	専門家・選手層	2.53	3.61	-0.65
	フェスティバル	-3.84	-0.11	-1.56
企	見本市・展示会	1.69	-2.17	-0.65
	シンポジウム	2.35	8.53	-4.51
	スポーツイベント	0.18	1.81	1.86
	コンサート・展覧会	-0.32	-0.13	3.71
	コンテスト	-0.43	-0.01	7.55
	博覧会	-2.14	-3.67	-32.4
開	会場使用	1.31	0.03	0.57
	特設会場設置	0.73	-0.77	-5.74
	オーブンスペース	-3.51	0.05	-0.56

開催地	大都市圏型	1.25	-0.14	-0.01
	観光地型	-2.13	-0.20	0.15
	閑村型	-3.46	0.73	2.29
	一般地方市町村型	-2.26	0.37	-0.40
	社会還元型	-2.35	0.46	0.05
	利益追求型	2.08	-2.12	0.78
目的	両者型	0.76	-1.53	-1.56
	専門家・選手招待型	1.40	4.95	0.70
	内籍型	-1.53	3.31	1.03
	告知型	1.28	-1.07	1.00
	両者型	0.18	-0.62	-1.20
	専門家・選手招待型	-4.53	0.47	-1.82
型	1000人未満	1.97	6.68	-1.45
	1000人-2000人	1.49	2.66	2.91
	2000人-5000人	0.64	-0.39	3.94
	5000人-1万人	-0.10	0.24	3.73
	1万人-5万人	0.03	-1.23	0.77
	5万人-10万人	-0.03	-2.03	-2.38
参加者数	10万人-100万人	-1.65	-1.10	-3.28
	100万人-1000万人	-1.91	-1.80	-18.5
	1000万人以上	-	-	-

大きく専門性が強い。特に分類10は専門性が非常に強い。内容から考えて、分類9を「スポーツ・シンポジウム」と呼び、分類10を「専門的シンポジウム」と呼ぶことにする。

なお、以上の分析は開催間隔データの存在する2回目以降のイベントを対象としたものである。初めて実施されるイベントや1回限りの単発的なイベントを含めて同様の分析を行ったが、上記の結果と同様の結果がみられた。

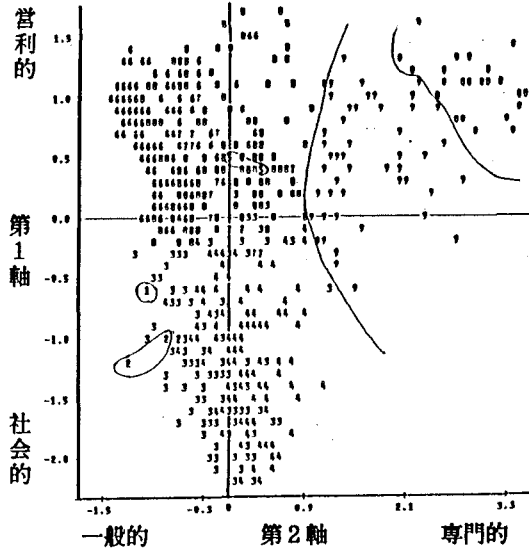


図-1 サンプル数量図（第1軸×第2軸）
注）0は分類10を示す

3. 各分類における参加者数について イベントを実施する上で、参加者数は重要である。参加者数はイベントの参加者動員能力を意味する。よって、イベントを実施して得られる効果のうち、経済効果や教育・文化的効果、地域宣伝効果などの大きさを規定する指標の一つと考えることができる。

まず、参加者数の多いイベントとしては、博覧会や特設会場イベント、大規模フェスティバルがある。総じて、フェスティバル系イベントの方が、見本市をはじめとする営利的イベントよりも参加者数は多い。（表-2）つまり、フェスティバル系イベントは営利的イベントに比べて参加料といった直接的な収入は小さいかもしれないが、参加者数が多いため、知名度向上のようなイベントの間接的な効果が大きいと期待できる。また、分類9、10のような

専門性の高いイベントでは参加者数は少ない。これらのイベントは専門的な内容を重視しているため、もともと対象とする層を絞っていることが多いためである。従って、間接的な効果もあり大きくないと考えられる。

4. 各分類における1日当たりの参加者数について

1日当たりの参加者数は、イベント実施地域におけるイベント参加者に対しての交通施設や宿泊施設等の負荷を示している。大規模フェスティバル、特設会場イベントは1日当たりの参加者数が特に大きい。これらのイベントは特設会場やオープンスペースで実施されているが、参加者による負荷が大きいので充実した都市基盤が前提となる。博覧会イベントは1日当たりの参加者数は中程度であり、上述の3種類のイベントに比べると都市基盤に対する負荷は小さくてすむ。しかし、催期が長い場合、応急的な施設では対処することができない。遊休施設とある程度の都市基盤があれば、開催は容易になると考えられる。その他のイベントは、既存会場で実施するものが多く、会場の収容人数が制限されているため、1日当たりの参加者数も少ない。よって、交通施設などの都市基盤に対する制約は少なく、開催できる地域も幅広いものとなる。しかし、これらのイベントを実施するためには会場が必要であり、会場となる施設の整備が非常に重要となる。

表-2 各分類の1日当たりの平均参加者数

	平均 開催期間 (日)	平均 参加者数 (万人)	1日当たりの 平均参加者数 (万人/日)
1 博覧会	127.5	575.00	3.78
2 大規模フェスティバル	24.0	132.00	17.69
3 中規模フェスティバル	15.5	28.75	9.20
4 小規模フェスティバル	4.8	3.37	2.44
5 特設会場イベント	10.0	102.00	7.07
6 展示会・見本市	7.0	9.68	2.28
7 コンサート・展覧会	18.1	0.92	0.75
8 標準企業型	5.4	2.33	0.98
9 スポーツ・シンポジウム	5.4	4.74	0.58
10 専門的シンポジウム	4.8	0.08	0.19

5. おわりに 本研究はイベントの類型化と各々に対する参加者数についての研究であるが、今後は実施条件や地域整備効果を明確にし、イベントを活用した地域整備の実施計画に関する方法論を構築していきたい。